

名古屋女子大学

9号

総合科学研究所だより

Research Institute of Human Ecology, Literature and Education



巻頭言

総合科学研究所長
柴山 正
SHIBAYAMA Tadashi

厚生労働省の人口動態統計によりますと、平成20年の合計特殊出生率は1.37で、前年を0.03上回りました。ちなみに最も高いのは沖縄県1.78、逆に最も低いのは東京都1.09で、東海四県は、静岡県1.44、愛知県1.43、三重県1.38、岐阜県1.35です。

合計特殊出生率は、第一次(昭和22~24年:団塊の世代)ベビーブーム期には、4.32でしたが、昭和25年以降急激に低下し、昭和41年には丙午の影響で1.58になりました。その後、第二次(昭和46~49年:団塊ジュニア)ベビーブーム期を含め、2.1で推移していましたが、昭和50年に2.0を下回ってから、再び低下傾向になり、平成元年にいわず「1.57ショック」と騒がれ少子化がクローズアップされました。

そして平成15年には、合計特殊出生率が1.3を割る水準である超少子化国となり、平成17年には過去最低の1.26になりました。この出生率は、ここ3年連続して上昇しているものの、依然として人口置換

水準(=人口を維持できる水準の合計特殊出生率2.07)を下回っています。

同統計によりますと、わが国の年間の出生数は第一次ベビーブーム期には約269万人、第二次ベビーブーム期には約204万人でした。昭和50年に約190万人になり、それ以降毎年減少を続け昭和59年には約149万人、平成3年から平成17年は増加と減少を繰り返しながら漸減し、平成18年は前年より30,144人増加、平成19年は2,856人減少そして平成20年の出生数は109万1,150人で、前年より1,332人増加しています。第二次ベビーブーム期に生まれた団塊ジュニアが結婚する年代になっても、第三次ベビーブームの到来は無く出生数は減少しています。

また総務省(人口推計)によりますと、年少人口は約1,718万人で28年連続の減少であり、対総人口比も13.4%で35年連続の低下です。これに対して生産年齢人口は約8,230万人(対総人口比64.5%)で、老年人口は、約2,822万人(=対総人口比22.1%)です。この少子高齢化の進展が日本社会の将来に与える経済的・社会的影響は計り知れません。そこで少子化対策の前提は「銀も金も玉も何せむに勝れる宝子にしかめやも」(山上憶良)です。

ところで総合科学研究所の本年度の事業(後頁)は「(1)機関研究 (2)プロジェクト研究 (3)開かれた地域貢献事業 (4)講演会」等で、その内容は時代に即応したものです。皆様のご協力・ご支援をお願いします。

平成20年度
「開かれた地域貢献事業」
報告

名古屋市瑞穂児童館・瑞穂福祉会館
オープニングイベント

「みんなで遊ぼう！」を終えて

名古屋市瑞穂児童館館長 長谷川榮子

平成20年9月に名古屋女子大学の先生方から「地域子育て支援活動を共同で」とのお話をいただきました。私たちは、とてもうれしく思い「わくわく」したものです。3月に児童館の移転を控えておりましたので、オープニングイベントにご協力頂くことになり、その後も何度か丁寧話し合いを重ねる中で先生方の熱意を感じました。

平成21年3月26日(木)の新館オープニングイベント当日には、名古屋女子大学文学部児童教育学科、短期大学部保育学科の協力により、おもちゃを作って遊んだり、音あてクイズをしたり、人形劇・紙芝居をみたりして楽しみました。名古屋女子大学春光会(同窓会)の方による乳幼児の食育相談、高齢者の栄養相談、試食コーナーの運営や、家政学部生活福祉学科による“なつかしい思い出に花を咲かせましょう”や、職員によるキッズゲームコーナーなどたくさんブースを展開することができました。乳幼児と保護者、小中学生、地域の方、元気で意欲的な学生さん、先生、関係者など「人、人」であふれました。トラブルもなく、子どもから高齢者の方まで一人一人が楽しんで参加できたようでとても良かったです。次回を楽しみにしてみえる方も多くみえます。

さて当館では、児童館まつりや卓球大会、演奏会等の事業を、多くのボランティアの方に協力していただき実施しております。平成20年度には子育て支援事業に関わっていただくために、「子育て支援者養成講座」を開催いたしました。終了後には、12名の地域の方が

支援者として参加して下さることになりました。「親子が心でつながるハートフルクラシック」の演奏会等を開催し、202名の親子に参加いただきました。今年度は、支援者の方のスキルアップを図る「子育て支援者スキルアップ講座」を開催するとともに、支援者の方とはじめての共同企画「親子でつくろう七夕かざり」を開催し、参加者と一緒に楽しみながらコミュニケーションをとることができました。現在、名古屋女子大学さんとの楽しみな連携事業も予定しております。このような事業をとおして、地域の方や利用者とのコミュニケーションをとり、サービスの向上を図っていききたいものです。児童館が「いい出会いの場」そして「ホッとできる場」になるように、小学生から高校生の方には、「家庭でもない、学校でもない、自分が出せる場」になるとよいと思っています。楽しい施設になるように、より連携が深まることを願っています。今後ともよろしくをお願いします。



機関研究

「創立者越原春子および女子教育に関する研究」

～19世紀～20世紀における女子教育の国際比較～

石倉瑞恵・木原貴子・遠山佳治・羽澄直子(代)・依岡道子

本研究は、本学創立者越原春子の建学の精神、教育理念および国内外の女子教育について、研究メンバーが個々の専門分野から多角的に検証することを目的としています。第一期研究(平成17～18年度)、第二期研究(平成19～20年度)を経て、今年度は第三期研究(平成21年～22年度)の1年目にあたります。

今年度の研究テーマは「19世紀～20世紀における女子教育の国際比較」です。日本では明治時代に入った1872年の尋常小学校開設とともに、女子への公教育が始められます。1885年生まれ

の本学創立者が新しい学校制度の教育を受け、すぐれた女子職能人の育成をめざした名古屋女学校設立(1915年)へと至る時代は、各国で女子教育への関心が高まり、学校制度が本格的に整備されていく時期とほぼ重なります。今年度は女子教育の始まりとその変遷について、研究メンバーそれぞれが専門とする地域の事情や歴史的背景をふまえて考察し、研究会での討議を通じて比較検証を進めていきます。対象となる国は、日本、イギリス、アメリカ、チェコを予定しています。

(文責:羽澄直子)

機関研究

「大学における効果的な授業法の研究5」

～多様な学習成果の評価方法の開発～

石倉瑞恵・下木戸隆司・白井靖敏・遠山佳治(代)・原田妙子・宮原悟・幸順子

本研究は、平成13年度から研究所機関研究として継続しています「大学における効果的な授業法の研究」(1情報教育、2語学教育、3教養教育、4初年次教育)の一環として位置づけられ、今年度の平成21年度から平成23年度まで3年間かけて行う研究です。

中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において、学生の単位認定・成績評価の厳格化が叫ばれ、学生の成長という観点で教育課程を見直す必要性が出てきました。

多様な学習活動の成果(とくにジェネリックスキルズ)を評価するためには、標準的なテストでは測定できないという状況があり、学生の学習履歴などの記録と自己管理のためのシステムを開発することが急務となっています。

そこで、本研究では以下の5点を研究課題としています。①本学の教育課程全体におけるカリキュラムポリシーの確認、教育課程における各授業の位置付けの明確化、②学生のニーズおよび学力の正確な把握、③教養教育・初年次教育・キャリア教育等の教育効果の測定、④各研究課題をもとにした具体的授業改善の方略提示、⑤学習ポートフォリオをはじめ本学学生用の評価手法の具体化と評価マニュアルづくり。そして、本学学生を対象とした多様な学習評価方法の開発を検討し、本学の授業改善に応用可能で、有用性のある実践的研究を行うよう、現在、ラーニングポートフォリオの先行事例を分析しながら、上記の課題に向けて、研究活動を始動いたしました。

(文責:遠山佳治)

機関研究

「中学生の学力向上に関する研究」

～思考力、判断力を高める授業づくり～

中学校学力向上研究グループ

「思考力を高める授業づくり」

文部科学省によって昨年3月に学習指導要領が改訂されましたので、昨年度の校内研究はそれに伴う授業改善にポイントを絞り、研究活動を進めました。この改訂は昨年1月の中教審がとりまとめた答申を踏まえたものです。答申では、「生きる力」をはぐくむという教育の理念は引き続き重要視するとしています。そして、さらに2つのポイントとして「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等の育成」を挙げています。

そこで本年度の研究は、これまでの研究とからめる形で「思考力を高めること」に焦点をあてた授業づくりとしました。それぞれの教科が考える思考力とはどのようなものなのか。それらを育て、鍛え、高めていくための授業とはどのようなものなのか、について

研究活動を進めています。

第1学期の主な活動としては、5月に研究会、6月に研究授業(数学)と研究会、7月に公開授業(英語)、8月に夏期研究合宿を実施しました。

研究合宿では、基調提案と各教員の実践レポートを基に、今後生徒に培いたい思考力について協議を重ねました。「思考力」について教科を超えて共有できるものと教科によって変わってくる部分に関して共通理解を得ました。

今後は更に具体的な授業像を求めながら、2月の研究発表会に向けて「思考力を高めること」についてまとめていきたいと考えています。

(文責:福田 誠)



▲研究授業



▲公開授業



▲平成21年度中学校夏期研究合宿

機関研究

「高校生の学力向上に関する研究」

～思考力を育む効果的な授業のあり方～

高等学校学力向上研究グループ

総合科学研究所と連携した高等学校の研究活動も3年目を迎えました。昨年度の「高校生の学力向上に関する研究」を受け継ぎ、今年度は特に「思考力を育む効果的な授業のあり方」をテーマに掲げました。

中学受験や高校受験では、知識だけで答えられる問題も少なくありませんが、大学受験では知識を詰め込むだけでなく、いかに「思考」するかが問われる局面が多くなることは周知の事実です。

「思考力とは何か」を考えれば、高校生が学ぶ国語・数学・英語・

理科・地歴公民などの教科によって性質は多少異なるかも知れませんが、「知識を活用して論理的に考え、問題解決などの実践に生かす力」が学力向上において極めて大切であることはどの教科にも共通していると思われます。

他府県の研究会に積極的に参加し、教育講演会を開催し、日々の授業を見つめ直しつつ研究授業を行なって思考力を育む授業を研究し、生徒にとっての学力向上、大学受験、さらには生きる力に結びつけたいと思います。
(文責:秋田武史)

機関研究

「幼児の才能開発に関する研究」

～幼児の育ち合いを促す保育実践Ⅱ～

幼児保育研究グループ

今年度の研究目的である「幼児の異年齢交流・仲間・自然・実体験等をキーワードとした育ち合い」を求めて、6月16日(火)、全学年での交流『みんなで遊ぼう』を実施しました。幼稚園生活における子どもたちの遊びは、生活そのものであり、個として、集団として、大きく成長することのできる様々な要因がそこにはあふれています。今回は、日常の遊びとは異なる遊びの持ち方を計画し、運動あそび、工作、砂場での泥んこ遊びなど、子どもたちが自由にいろいろな遊びを行き来しながら自分なりの取り組み方で楽しめるように見守りました。その中で、3歳児を手助けする5歳児、5歳児の取り組みを見て見よう見まねで挑戦する3歳児。また、泥の感触を思う存分楽しんだ4歳児。心も体も発散させ熱中する遊びの展開が見られました。今回の取り組みを通して、子ども同士での教えあい助け合いの姿から年齢の大きな子どもが小さい子どもへの優しい思いやりの気持ちを持った関わりや、逆に年長児の姿をきっかけにそれを刺激として自分なりの挑戦に変えていく姿の現れを考えると、異年齢での関わりの中から芽生えたものは意義深いものであると言えます。この取り組みを継続し、さらなる子どもの成長の姿を検討していきます。
(文責:森岡とき子)



▲交流日でのどろんこあそび ～ペットボトルの壺に水を流して～

プロジェクト研究

「新任教員の適応及び新任教員研修に関する研究」

和井田節子(代)・亀山有希

私たち児童教育学科児童教育学専攻は、心身ともに健やかな子どもたちを育むことができる教師の育成を目指し、教壇に立ったときに支える理論やスキル、現場の情報を伝えてきました。その卒業生たちがさらに生き生きとした教員生活を送るためには何が必要なのだろうと思ったのがこの研究の発端です。

教師として充実していくには、新任時代にやりがい感を持つことが第一歩です。そこで新任教員の適応をテーマに据えて調べることにしました。具体的には、今年から小学校教諭になった平成20年度卒業生のインタビュー調査と、いくつかの自治体からの、研修

制度や研修内容に関する聞き取り調査をしています。

これらの成果は、現場で生かせる力をつける授業づくりに役立てていくつもりです。また、各自治体による初任者研修には、新任教員を支えるさまざまな工夫が見られます。それらを各自治体に還元していく予定です。

学校臨床学という心理・教育の分野と、体育社会学という身体・教科教育・社会学の分野を専門とする二人の専門性を生かしながら、幅広い視野でこのテーマをとらえ、現場と大学をつなぐ新たな視点をさぐっているところです。
(文責:和井田節子)

プロジェクト研究

「情報通信機器を利用した双方向型大学授業の試み」

～「教育心理学」・「心のしくみ」における実践的検討～

下木戸隆司(代)・白井靖敏

本研究では携帯電話などのモバイル情報機器を使って、学生から送信された情報をサーバに集め、そこで加工・編集・集計作業を行った後、液晶プロジェクタにリアルタイムで表示する方法を開発し、授業のなかで効果的に活用していきたいと考えております。とりあえず、平成21年度に家政学部・文学部・短期大学部で開講している「心のしくみ」「心のはたらき」で探索的に実施して、システムの問題点や改善点、他の活用方法などを模索し、吟味します。

学問への興味を促し、自分自身への理解を深めるために、心理学の授業では心理テストを実施することがよくあります。その際学生

の関心をひくのは、自分以外の他の人たちの結果がどうだったのかという点です。本研究で開発しているシステムを使えば、全員分のデータが統計処理され、全体の傾向がグラフでわかりやすく表示されますので、周りの人たちがどんな回答をしているのかを知り、それと自分を比較することが可能になります。実際に授業では、「みんなの傾向がすぐに知れてよかった」「携帯を使った授業ははじめてで面白い」などといった感想が得られております。単に目新しいだけの方法で終わらないように、今後さらに研究を進めて検討していきます。
(文責:下木戸隆司)

平成21年度 「開かれた地域貢献事業」

今年度も昨年度に引き続き、本学と地域にある各公共施設とのコラボレーション事業を推進する計画を進めております。具体的には、①名古屋市瑞穂児童館、②名古屋市瑞穂保健所との交流事業です。 (文責:遠山佳治)

1 名古屋市瑞穂児童館との交流事業

9月から平成22年2月にかけて、本学教員による各種講座を瑞穂児童館にて実施します。9月に実施する講座は、「パソコンミュージックを楽しもう」(小学校高学年対象)、「乳幼児の食育相談」(乳幼児とその保護者対象)です。以降、10月に1件、11月に2件、2月に3件の講座が予定されています。

また12月には、児童館のクリスマス行事を、保育・教育および家政系の教員・学生を中心に盛り上げていく計画を立てています。



▲栄養相談

2 名古屋市瑞穂保健所との交流事業

9月から平成22年1月にかけて、65歳以上の高齢者を対象とした「若がい教室キラキラコース(平成21年度認知症・うつ予防教室)」6日間コースのうち5日間を、昨年度の地域貢献事業を担当した本学教員が担当することになりました。本学を会場として、「懐かしい思い出で、いきいき♪キラキラ」「音楽や歌に合わせて体を動かしましょう」「伝統的な遊び!覚えていますか?」「新しいことにもチャレンジ!拓本をとってみよう」「チャレンジ!香りのよいヒノキを使って…」というプログラムで実施します。



▲記録帳

今年度運営委員

委員長

遠山 佳治
TOYAMA Yoshiharu
(短期大学部)

荒井 康夫
ARAI Yasuo
(文学部)

駒田 格知
KOMADA Noritomo
(家政学部)

佐野 満昭
SANO Mitsuki
(家政学部)

羽澄 直子
HAZUMI Naoko
(文学部)

研究所メンバー

所長

柴山 正
SHIBAYAMA Tadashi

顧問

河村 瑞江
KAWAMURA Mizue

主任

渋谷 寿
SHIBUYA Hisashi

講師

越原 もゆる
KOSHIHARA Moyuru

職員

浅井 貴子
ASAI Takako

編集後記

本号では、最近の総合科学研究所の事業を紹介させていただきました。その中の、大学授業法の研究は、中央教育審議会答申に沿いながら先進的な試みが続いており、本学の授業にも大きな貢献ができる内容として期待されます。また、地域貢献事業として実施しました、「みんなで遊ぼう」は、本研究所と瑞穂児童館が主催した公的機関連携の初めての催しとなり、地域貢献のあり方が一歩前進いたしました。その後も新たな事業計画が進行しております。このように、本研究所は時代・社会のニーズに対応しながら有意義な活動を続けております。今後も是非総合科学研究所の研究や、本研究所主催の催しに参加していただきますようお願いいたします。

主任 渋谷 寿

越原記念館

開館時間/10:00-17:00 休館日/土・日・祝日・学園休業日 入場料/無料

◆9月24日(木)より

『常設展 学園の歴史 -春子先生・和先生から今日の学園へ-』

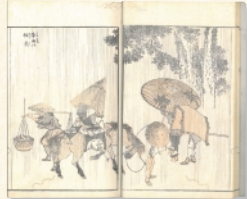
◆9月24日(木)~12月18日(金)

『企画展 教科書を彩る資料の数々]-学園収蔵品から-

中学・高校の社会科の教科書で扱われている歴史(日本史)系の資料を実物(古書・古文書等)で見ることができる大変貴重な機会です。



『童女専用 女寺子調法記』表紙



葛飾北斎「北斎魚画」春雨の往来



奈良絵本 源氏物語「はつね」

主な展示品

福澤諭吉「学問のすゝめ」初版本、「文明論の概略」「西洋事情」
古活字本・奈良絵本「源氏物語」
『伊勢物語』「徒然草」『土佐日記』写本
国学者 本居宣長等の版本「古事記伝」等
近松門左衛門・紀海音の浄瑠璃本
葛飾北斎「北斎漫画」「北斎魚画」
『北越雪譜』『日本山海名産図会』『尾張名所図会』『摂津名所図会』
井原西鶴「日本永代蔵」・宮崎安貞「農業全書」・大蔵永常「農家益」
貝原益軒「養生訓」「諸州めぐり」(「女大学」)
十返舎一九「東海道中膝栗毛」・為永春水「春色梅児誉美」
日本最初の算術書「塵劫記」・関流算術書
松尾芭蕉「奥の細道」「笈の小文」
絵入りの百科事典「和漢三才図会」「職人尽敬会」
古浄瑠璃「田村」・役者評判記「雨夜三斎機嫌」
島崎藤村「夜明け前」初出本(中央公論)
第1回芥川賞・直木賞発表の「文藝春秋」
古文書系資料として「宗門改帳」「物成・小物成帳」
明治6年の「地券の証」
寺子屋本・小学校教科書 など